



タイ人から見た北海道の魅力と課題

パックティダー・ナワウイチャーポーン (ポー)

札幌国際大学大学院観光研究学科修士2年生

1991年タイ王国チョンブリ県に生まれ、2008年日本政府が行った21世紀東アジア青少年大交流計画事業の奨学金を取得し、短期で来日。シンラパコーン大学文学部卒業後、タイ国内日系企業に勤め、14年、日本語を学び、15年から札幌国際大学大学院に進学。17年4月から札幌にて就職予定。

北海道でつながった思い

私は限られた人生の中でお金ではなく、やってみようことや他の人に役に立つことなどを優先し、全力で頑張りを続けている。2008年、日本政府が行った21世紀東アジア青少年大交流計画の奨学金（AFS JENESYS）を受け取った事がきっかけで、短期で初めて来道し偶然、札幌でホームステイをさせてもらった。日本のことが好きになり、シンラパコーン大学で日本語学科を専攻した。卒業後、タイの日系会社に就職をしたものの日本語の不十分さを知り、日本語の能力を高めるために、14年7月、再度来道し、日本語学院で勉強をした。来道するタイ人観光客が急増しているのを見て、北海道にいるタイ人として、将来的にタイ人へ北海道地域の観光資源や魅力的なところなどを広げることを目指していきたくと思った。そのために、大学院に進学することにした。

素直な心で生きることが奇跡を起こす

日々時間を大切に、勉強をしながら、タイ語の教師、通訳、レポーター、ガイドなどのアルバイトを楽しく続けた。15年4月に「サツコレ*」とタイアップしたタイとuhbテレビ局共同制作番組が、タイ人若年層女性をレポーターに募集、自信がないまま早速応募した。それがきっかけで、テレビの仕事が始まり、uhbの「タイ人留学生ポーちゃんが見た北海道おもてなしHOKKAIDO」やTVhの「けいざいナビ国際学部」でレポーターの仕事をするようになった。ただ、今まで自分が活躍できたのは自分の実力だけではなく、家族をはじめいろいろな方々の支えがあったから。感謝し、素直な心で生きることが奇跡につながったのだ。

* サツコレ

札幌コレクション実行委員会主催、札幌市後援のファッションイベント。

タイ人から見た北海道の魅力

数年前からタイ人観光客来道者数が急激に増加している。2007年時点で2,150人だったタイ人観光客は、8年後には約70倍の155,200人となった。私は初めて北海道に来た時、最も楽しみにしていたのが「雪」で、スノーランドのようなイメージだった。「観光」「食べ物」「雪」、様々な北海道の観光資源はほとんどタイにないもので、タイ人にとって「北海道」のブランド力は高い。特にタイ人は、北海道に対するイメージとして「雪」を強く求める。

ただし、人々に「北海道」の良さを発信しないと、発展性がない。豊かな自然に囲まれた北海道の魅力は「人」から「人」に発信することが重要なポイントである。あるいは、いろいろなメディアを活用しながら、「人」を通じて北海道の良さを理解してもらうことで、タイ人観光客のさらなる増加が期待できる。

誰かからもらうのじゃなく、誰かにあげられることこそ

テレビの取材などを通して、様々なまちの人々に出会ったり、道内の地域の魅力に触れた。応援してくれた方々からの「私は海外に行ったことないが、ポーちゃんのことを知ってタイに行きたくなった」という温かい言葉は、私の心に響いた。思いがけず北海道に在住しているタイ人の一人として、タイと北海道の架け橋になるために自分自身ができる何かを見つけていきたい。そして、それを実現させたい。少しでも誰かのために役立つ何かを自分のものにできれば、人生の宝物になるのではないかと思う。